

事後評価報告書(日本-デンマーク研究交流)

1. 研究課題名:「刺激追求型人格特性におけるドーパミン合成能の役割」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者: 東京大学 先端科学技術センター 特任助教 熊倉 嘉貴

2-2. デンマーク側研究代表者: オーフス大学 PET センター 教授 Albert Gjedde

3. 総合評価: (B)

4. 事後評価結果

(1)研究成果の評価について

高分解能 PET の装置と技術を有するデンマークとの研究協力により、脳内ドーパミン動態の解析を試みる研究内容は、本国際研究交流事業の趣旨に合致したものであるとして評価される。日本側はデンマーク側より技術を修得し、パーキンソン病等の疾患とドーパミン代謝異常の関係を明らかにすることが出来た。残念ながら、当初の目標である刺激追求型的人格特性をもつ人々のドーパミン異常の解明までには至っていない様である。今後、解析対象例を増やし、病態と画像解析の関連が診断や治療に役立つようになることを期待する。

(2)交流成果の評価について

これまで日本国内では困難であった十分なデータの収集が、本国際研究交流事業によるデンマークとの協力で可能となった。また国際シンポジウム等が開催され人的交流もなされたが、デンマーク側からは教授クラスのみが来日している。若手研究者の国際交流もより活発になされることが望ましい。

(3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

本研究交流では、日本側にとって技術習得等で有用な面が多くあったが、デンマーク側がどのような成果を得たのか判りにくい。共著論文は複数発表されているが、本研究交流以前の成果も含まれている様に思われる。また、本研究の主目的である刺激追求型人格特性とドーパミン代謝異常の確認データが、投稿準備中として示されていないのは残念である。